

茶業に関する視察研修

参加者 川口堅志 栗原吉平

日程 1月28日～30日 詳細は別紙添付

28日 お茶と宇治のまち交流館ミュージアムについては、宇治茶の詳細がわかるビデオ放送等あり、非常に分かりやすい施設であった。

29日法隆寺ゆかりの茶室・待清庵については、蒲 規世子氏さんによる、ゆかりの説明を頂きました。

惜しみなくフレンドリーな講師で茶業の変化についてこと細かく説明を頂きました。

近年では、中国のお客様が非常に多くなったとのことでした。

30日広島茶店/(茶の環) (Cha-no-wa) を視察お茶店でありながらリーフの茶販売は殆ど見当たらず、ティーバックの茶がちらほら、後は抹茶のスイーツが90%のシェアを占めている茶店であった。

総合してここ20年ほど前より茶業のあり方は急激に変化をもたらし、ティーバックの茶は何とかまだ需要はあるが、リーフの茶については、九州よりいち早く関西地方、関東地方の業界が衰退しているようです。

八女茶の生き残りは、認知度は高くてもどの様にこの先、生き残れるかを模索しなければなりません。

流れにそった戦略もひつようであることは承知しているが、八女茶の付加価値をどのように見出すかも非常に大事であると感じた3日間でした。

何とか八女市各種団体とコラボしながら八女茶の生き残りをかけた対策を考えなければならぬと強く感じた視察研修でした。

川口堅志